

草筆木筆で描く不思議のらかんたち

草画帖 22



魚山 号



鬼のつく植物たちの号です。
（表紙はアカオニタビラコ、
号名はオニノゲシの筆。）
左はオニタビラコ、赤鬼です。

鬼の名のつく山川の立春譜



青鬼田平子筆。
オニタビラコに赤と青があるそうナ。



赤鬼田平子筆。
節分で草舎に回ってくるのはいつも赤鬼。



小鬼田平子筆。
春の七種のホトケノザでもある。



紫苑筆。古名鬼の醜草（おにのしこぐさ）。
醜という字には鬼がいる。魔力も魅力も鬼のちから。

立春のロゼット

立春の旅は

隣の空き地

鶉も

尉鶉もない

病床の荒涼に似て

空き地には

気の早いべんべん草と

狂い咲きの

蒲公英一本

すでに綿毛である

惹かれたのは

花ではない

幾つか点在するロゼット

節分明けの

鬼田平子や

鬼野芥子が

艱難の季節の

曼陀羅模様を見せている

ロゼットを巡って

草の知恵に感銘し

無策無能の身が凍る

晩年は

そこらの春の

そこらも遠く

遠出とは

蝸牛山まで這うことか



鬼胡桃筆。
どこかで見たような貌なのだけれど…



鬼胡桃筆。

その昔胡桃踊りというのがあったかどうか…



八つ手筆。古名鬼の手。
鬼の指は三本という説もある。



鬼野芥子筆。
鬼の角は能きアンテナである。

鬼



鬼野芥子筆。

鬼の木は、槐（エンジュ）。鬼の草は、菟（アカネ）。

草話

二十年ほど前「鬼」という詩とも掌篇ともつかないものを書いた。鬼の面を被って街に出た男を短編映画風に綴ったもの。その電子版の作者プロフィールにこんなことを述べていた。

鬼や般若の面が好き。

鬼ごっこの鬼も好き。

山根青鬼・赤鬼の漫画も好き。

ゲゲゲの鬼太郎も下駄も好き。

上島鬼貫や西東三鬼も好き。

蟹座の鬼宿プレセペも好き。

*

鬼ごっこの鬼になることを嫌がらなかったこどもは仲間外れを恐れない。孤独を厭わない。

鬼は隠（おに）で、追いやられた疎外者、弱者でもある——という視点を教わったのは馬場あき子の『鬼の研究』。鬼は歴史の奥から、無念と悲しみを湛えた眼で現在を見つめている。

鬼の面を宝物にしたこどもは、鬼が人間に退治される物語や、鬼が人間に同化する話を喜ばない。

*

鬼の名のつく植物は多い。姫とか雛とかの付く小さいものは同類のよしみだが、大きくて鬼と名付けられたものにも哀れを覚える。



鬼胡桃

俳句 白山鳥翁 / 絵 艸々子 / 詩 泉井小太郎

草画帖 第22号 2020年2月4日 泉井小太郎編集 六角文庫発行
〒675-2312 兵庫県加西市北条町北条1039 Tel 0790-42-6008